

総合的指標一覧

参考資料 1

No.	区分	指標名	現状値	2035目標(R12)	2035目標(R17)	単位
1	農業	農業産出額(畜産業を除く)	949	1,040	1,107	億円
2		1経営体あたり農業産出額 新規	3.3	4.1	4.6	百万円
3	畜産業	生産農業所得 新規	487	571	633	億円
4		畜産業産出額	728	848	966	億円
5	基本方向 1	1経営体あたり畜産業産出額 新規	55.1	73.4	94.1	百万円
6		木材生産産出額	30.6	41.7	46.1	億円
7	林業	林業労働者1人あたり木材生産産出額 新規	4.1	5.4	5.8	百万円
8	水産業	漁業産出額	609	515	536	億円
9		漁業者1人あたり漁業産出額	15.9	14.2	15.3	百万円
10	基本方向 2	多自然地域に住み続けたいと思う人の割合 新規	73	76	77	%
11		農漁業生産関連事業年間販売金額 新規	401	404	408	億円
12	基本方向 3	県産農林水産物を選んで購入している人の割合	62.9	63.6	64.0	%

推進項目名:

担当課名: 総合農政課

指標名	農業産出額
-----	-------

1 指標の定義

農産物の生産量及び価格に関する諸統計等を用いて、都道府県別の品目ごとの生産量に、品目ごとの農家庭先販売価格(消費税を含む。)を乗じて求めたもの。

2 指標の算定式

農業総産出額 = Σ (品目別生産量 × 品目別農家庭先販売価格)

3 指標の選定理由

農業の産業規模を表す総合的な指標であり、昭和35年からの推移を確認できる数値であるため。

4 データの出典・収集方法

農林水産省「生産農業所得統計」により収集

5 データの収集時期

確報は例年3月下旬

6 指標の動向

H28年の1,011億円をピークとして減少傾向。過去10年において農業産出額に占める割合は、米と野菜で84~91%を占めるため、タマネギや米の単価で上下する(R4年はタマネギ単価の高騰により、農業産出額も前年比94億円増)。R6~7年は米の価格高騰により上昇すると予測される。

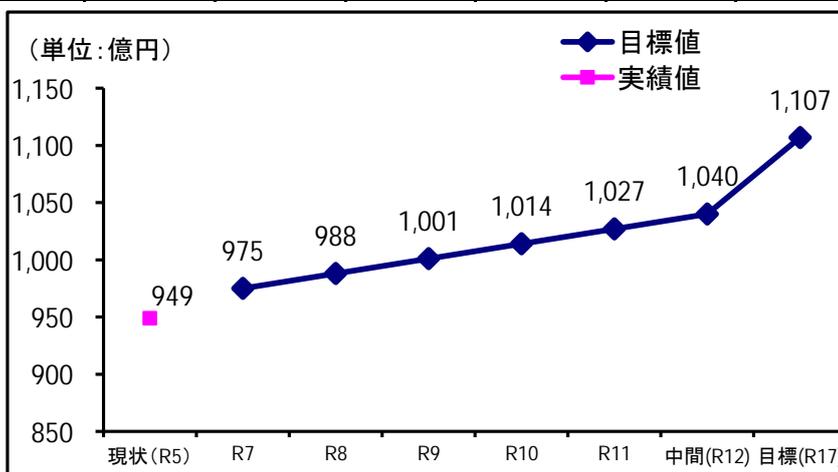
7 数値目標の説明

農業産出額に占める割合が高い米について、価格がR5年次より上昇すると予測。また、高温耐性品種「コ・ノ・ホ・シ」の普及などにより気候変動が続く中でも生産量を維持させていくことをめざし、目標値を設定。

8 数値目標

(単位: 億円)

区分	現状(R5)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	949							
目標値		975	988	1,001	1,014	1,027	1,040	1,107



推進項目名:

担当課名: 総合農政課

指標名	1経営体あたり農業産出額
-----	--------------

1 指標の定義

畜産を除く農業産出額を経営体数で割ったもの。経営体数は農業構造動態調査(農産物販売金額1位の部門別経営体数)により耕種部門の経営体を取得。

2 指標の算定式

農業総産出額 ÷ 経営体数

3 指標の選定理由

経営体ごとの農業の規模を表す総合的な指標であるため。

4 データの出典・収集方法

農林水産省「生産農業所得統計」「農業構造動態調査」により収集

5 データの収集時期

「生産農業所得統計」は例年3月、「農業構造動態調査」は12月に公表。

6 指標の動向

経営体数が減少しているものの、1経営体あたりの経営規模が拡大傾向にあるため、指標全体としては増加傾向を辿っている。

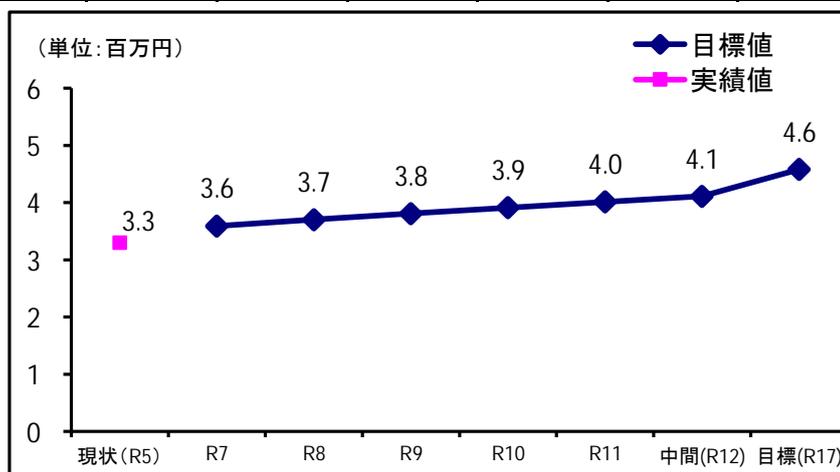
7 数値目標の説明

農業産出額の目標値を分子とし、経営体数の見通しを分母として算出。

8 数値目標

(単位:百万円)

区分	現状(R5)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	3.3							
目標値		3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.6



推進項目名:

担当課名: 総合農政課

指標名	生産農業所得
-----	--------

1 指標の定義

農業生産活動によって生み出された付加価値であり、農業産出額から物的経費を控除し、経常補助金を実額加算して求めたもの(畜産業含む)。都道府県値は、他府県に販売された中間生産物(最終生産物となる農産物の生産のために再び投入される農産物をいい、種子や子豚等が該当する。)を農業産出額に計上。

2 指標の算定式

$$\text{生産農業所得} = \text{農業総産出額} \times \frac{\text{農業粗収益(経常補助金を除く。)} - \text{物的経費}}{\text{農業粗収益(経常補助金を除く。)}} + \text{経常補助金}$$

3 指標の選定理由

農業と畜産業における収益を総合的に評価できる数値であるため。

4 データの出典・収集方法

農林水産省「生産農業所得統計」により収集

5 データの収集時期

「生産農業所得統計」は例年3月に公表。

6 指標の動向

農業産出額の影響を受けて増減しているものの、過去10年でみると減少傾向で推移している。

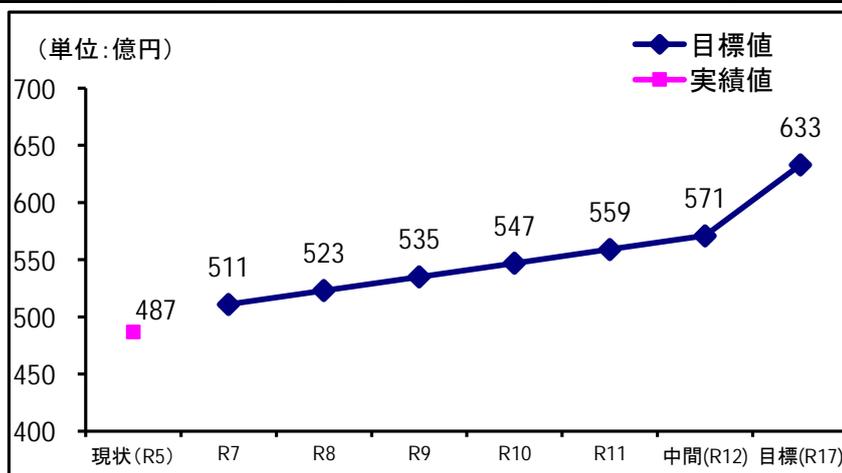
7 数値目標の説明

資材価格は高値で推移すると見込んでいるものの、農業産出額も同様に増加傾向で推移すると見込み、目標値を設定。

8 数値目標

(単位:億円)

区分	現状(R5)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	487							
目標値		511	523	535	547	559	571	633



推進項目名:

担当課名:

畜産課

指標名	畜産業産出額
-----	--------

1 指標の定義

畜産物の生産活動において得られた総収入

2 指標の算定式

農林水産省公表の生産農業所得統計(畜産物)

3 指標の選定理由

農林水産ビジョン2035において、基本方向1で掲げる「収益性の高い農林水産業の実現」における畜産分野の成果を総括的に図る指標として相応しいため

4 データの出典・収集方法

農林水産省「生産農業所得統計」

5 データの収集時期

翌々年3月頃

6 指標の動向

近年、生産者の高齢化に伴い経営体数は減少しているが、生産頭羽数は概ね維持されている。インバウンドや鳥インフルエンザの影響などにより変動幅が大きいですが、傾向的には物価の高騰に伴い単価等も上昇傾向にあることから、令和元年以降は右肩上がりに推移している。

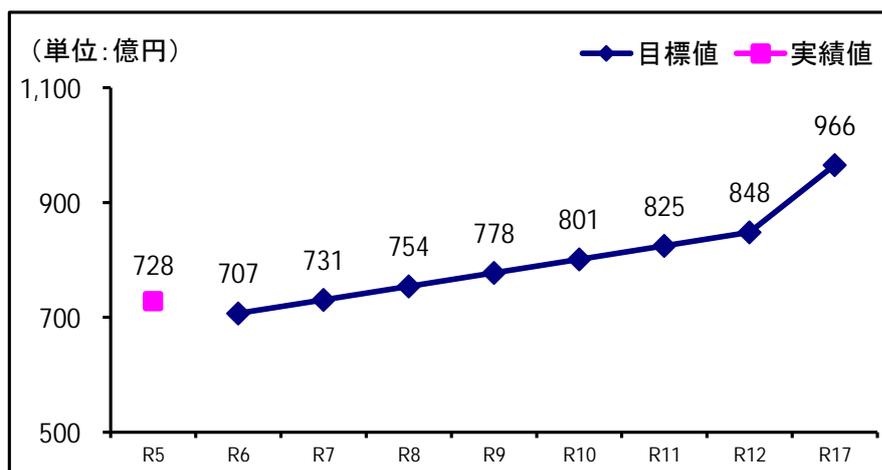
7 数値目標の説明

過去5年の畜産業産出額の変動から近似直線を引き、目標値を算定。
高齢に伴う農家の減少が見込まれる一方で、大規模化や物価上昇が畜産物価格に反映され、また、各種振興施策を講じることなどにより産出額は直線的に推移するとして算定。

8 数値目標

(単位:億円)

区分	現状(R5)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	728								
目標値		704	731	754	778	801	825	848	966



推進項目名:

担当課名: 畜産課

指標名	1経営体あたりの畜産産出額
-----	---------------

1 指標の定義

畜産物の生産活動において得られた総収入を経営体数で除した値

2 指標の算定式

農林水産省公表の生産農業所得統計(畜産物) ÷ 農林水産省公表の畜産統計(各畜種戸数)

3 指標の選定理由

農林水産ビジョン2035において、基本方向1で掲げる「収益性の高い農林水産業の実現」における畜産分野の成果を総括的に図る指標として相応しいため

4 データの出典・収集方法

農林水産省「生産農業所得統計」
農林水産省「畜産統計」

5 データの収集時期

・翌々年度3月
・翌年度7月

6 指標の動向

養鶏、肉用牛で産出額が増加しているため、上昇傾向にある。
畜産経営体数は酪農、肉用牛繁殖経営で後継者のいない小規模高齢農家の廃業に経営体数が減少する一方で、経営規模は拡大していくので1経営体あたりの畜産算出額も増加。

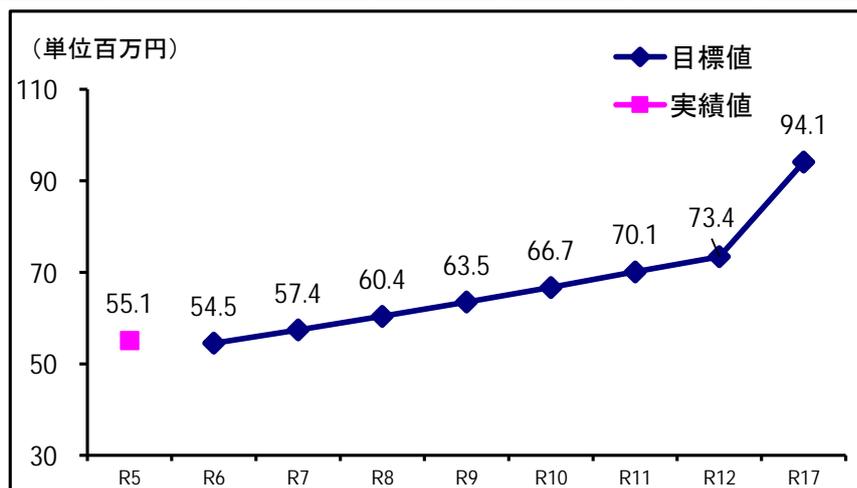
7 数値目標の説明

畜産算出額を畜産経営体数で除して、1経営体あたりの畜産産出額を算定
畜産産出額は増加を見込んでいる一方で、分母となる経営対数は、酪農、肉用牛繁殖経営で後継者のいない高齢小規模農家の戸数は減少すると見込んで算定。
(R5:1,321戸 ⇒ R12:1,156戸(▲165戸)、R17:1,026戸(▲295戸))

8 数値目標

(単位:百万円)

区分	現状(R5)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	55.1								
目標値		54.5	57.4	60.4	63.5	66.7	70.1	73.4	94.1



推進項目名:

担当課名:

林務課

指標名	木材生産産出額
-----	---------

1 指標の定義

林業産出額のうち、栽培きのご類生産・薪炭生産・林野副産物採取(まつたけ)の産出額を除いたもの。

2 指標の算定式

林業産出額 - (栽培きのご類生産・薪炭生産・林野副産物採取(まつたけ)の産出額)

3 指標の選定理由

木材生産の産業規模を表す総合的な指標であり、昭和61年からの推移を確認できる数値であるため。

4 データの出典・収集方法

農林水産省「林業産出額」により収集

5 データの収集時期

確報は例年2月

6 指標の動向

コロナ及びウッドショックにより、R2～4年は特異的に増加。その他の年は横ばい傾向が続いている。

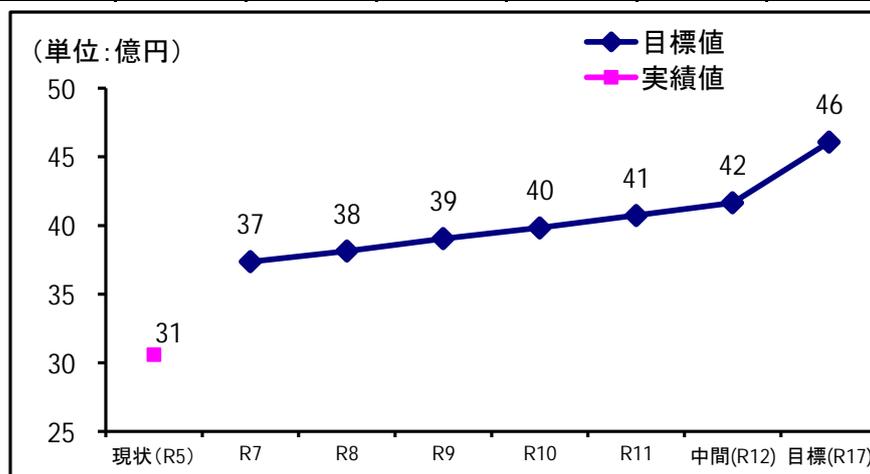
7 数値目標の説明

現状値(R5年度)に対し、建築用材の素材生産量の増加分を見込み、目標値を設定した。

8 数値目標

(単位:億円)

区分	現状(R5)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	31							
目標値		37	38	39	40	41	42	46



推進項目名:

担当課名:

林務課

指標名	林業労働者1人あたり木材生産産出額
-----	-------------------

1 指標の定義

木材生産産出額を林業労働者数で割ったもの。

2 指標の算定式

木材生産産出額 ÷ 林業労働者数

3 指標の選定理由

林業労働者ごとの木材産業の規模を表す総合的な指標であるため。

4 データの出典・収集方法

農林水産省「林業産出額」および兵庫県林業統計書により収集

5 データの収集時期

確報は例年2月

6 指標の動向

木材生産産出額は、コロナ及びウッドショックにより、R2～R4年は特異的に増加。その他の年は横ばい傾向が続いている。

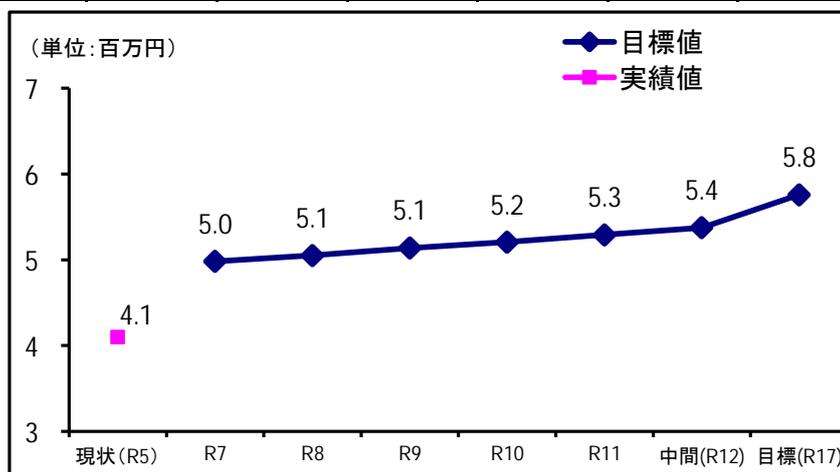
7 数値目標の説明

木材生産産出額の目標値を林業労働者の目標値で割り、設定した。

8 数値目標

(単位:百万円)

区分	現状(R5)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	4.1							
目標値		5.0	5.1	5.1	5.2	5.3	5.4	5.8



推進項目名:

担当課名: 水産漁港課

指標名	漁業産出額
-----	-------

1 指標の定義

兵庫県海域(瀬戸内海、日本海)における漁船漁業及び海面養殖業の合計産出額

2 指標の算定式

瀬戸内海漁船漁業産出額+日本海漁船漁業産出額+瀬戸内海養殖産出額

3 指標の選定理由

基本方向「収益性の高い農林水産業の実現」の指標として選定

4 データの出典・収集方法

兵庫県農林水産統計年報

5 データの収集時期

速報値:翌年5月頃
確定値:翌々年2月頃

6 指標の動向

瀬戸内海の漁船漁業産出額は概ね減少傾向であるが、直近のR5はシラスの好漁により増加。日本海の漁船漁業産出額はカニ類の単価アップにより僅かに増加傾向。瀬戸内海の養殖産出額はノリの養殖生産により変動が大きい、直近のR5は大きく増加。

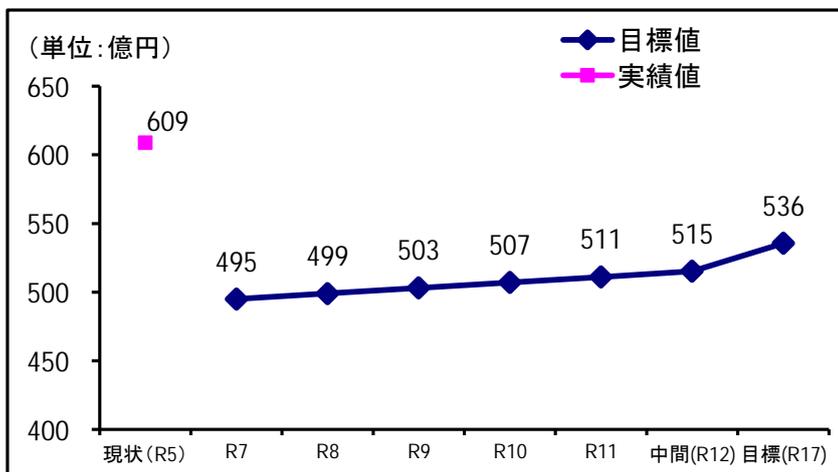
7 数値目標の説明

栄養塩の低下や水温上昇等による漁場環境の変化により生産量は減少傾向にあるが、豊かな海の再生に取り組むことによる生産量の安定化、収益性の高い水産業による産出額増加を目指す。R5は極めて高い特異値のため、直近5箇年のうち最低と最高を除いた3箇年平均(487億円)を基準値とし、10%増の536億円を目標値とする。
※県内漁協が策定している「浜の活力再生プラン」の目標値(漁業所得10%向上)を適用

8 数値目標

(単位:億円)

区分	現状(R5)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	609							
目標値		495	499	503	507	511	515	536



推進項目名:

担当課名: 水産漁港課

指標名	漁業者1人あたり漁業産出額
-----	---------------

1 指標の定義

兵庫県の漁業者1人あたりの漁業産出額(漁船漁業、養殖業とも含む)

2 指標の算定式

(瀬戸内海漁船漁業産出額+日本海漁船漁業産出額+瀬戸内海養殖産出額)÷正組員数

3 指標の選定理由

基本方向「収益性の高い農林水産業の実現」の指標として選定

4 データの出典・収集方法

漁業生産額:兵庫県農林水産統計年報
正組員数:水産漁港課調べ

5 データの収集時期

速報値:翌年5月頃
確定値:翌々年2月頃

6 指標の動向

年によって変動が大きいですが、近年は増加傾向。ノリ養殖やシラス漁が好調であったため、直近のR5は非常に大きく増加。

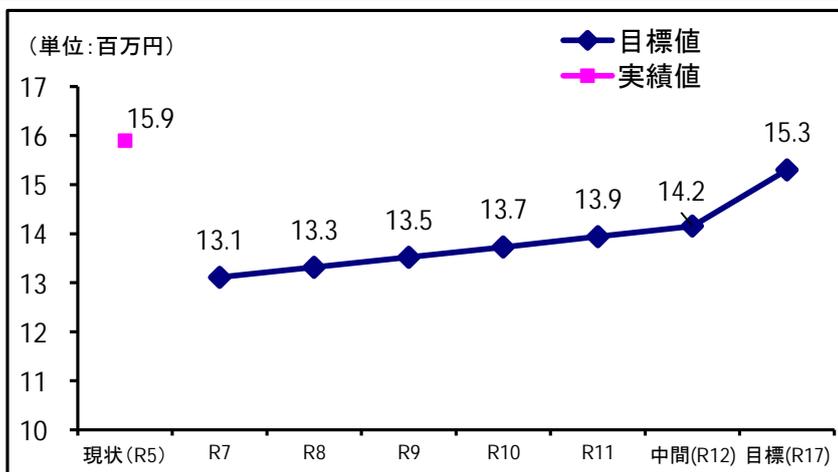
7 数値目標の説明

栄養塩の低下や水温上昇等による漁場環境の変化により生産量は減少傾向にあるが、豊かな海の再生に取り組むことによる生産量の安定化、収益性の高い水産業による産出額増加を目指す。漁業者数は減少傾向であるが、R17時点で正組員数3,500人を維持するペースを想定の上、目標とする漁業産出額を正組員数で割った額を目標値として設定。
※R5は極めて高い特異値のため、県全体の産出額は直近5中3平均を基準として算出

8 数値目標

(単位:百万円)

区分	現状(R5)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	15.9							
目標値		13.1	13.3	13.5	13.7	13.9	14.2	15.3



推進項目名:

担当課名: 総合農政課

指標名	多自然地域に住み続けたいと思う人の割合
-----	---------------------

1 指標の定義

兵庫県豊かさ指標調査(計画課調査実施)より「住んでいる地域に住み続けたい」とした回答を収集。10県民局集計のうち、対象外市町(尼崎市、芦屋市、伊丹市、播磨町)を有する阪神南、阪神北、東播磨県民局を除く7県民局の集計を指標として使用。

2 指標の算定式

住み続けたいと思う人 ÷ 多自然地域住民 (対象37市町、3,000集落)
 ※多自然地域対象:集落調査結果(R4. 10. 1)により把握

3 指標の選定理由

地域振興課多自然地域づくり班がKPIとして使用しており、農林水産部だけでなく他部との連携を表した多角的な指標であること、県民から見て分かりやすい指標であることから選定。

4 データの出典・収集方法

兵庫県豊かさ指標調査(計画課調査実施)により収集

5 データの収集時期

確報は例年9月下旬頃

6 指標の動向

直近3か年では、70%台前半で推移している。		令和4年度	令和5年度	令和6年度
	多自然地域に住み続けたい人の割合	73.74%	71.27%	73.31%

7 数値目標の説明

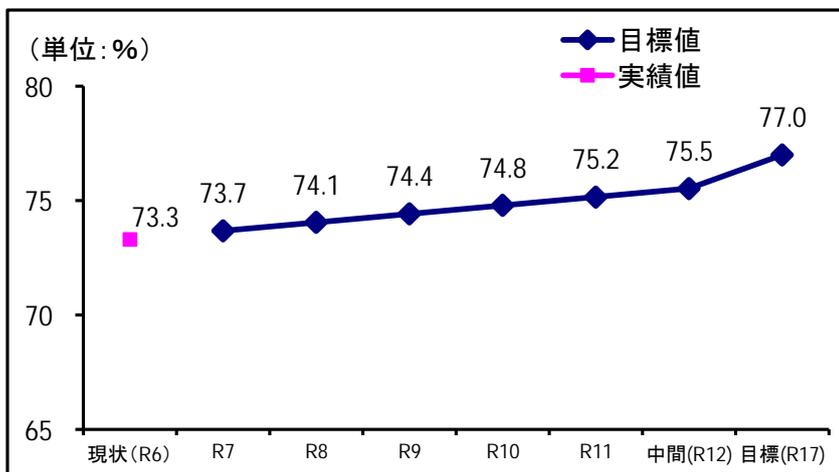
地域振興課では、多自然地域に住み続けたいと思う人の割合(%)が前年度を上回ることをKPIとしている。
 地域別では但馬地域がもっとも低く、神戸や淡路地域では他地域に比べて高い割合となっている。そのため、県全体の数値を神戸や淡路地域並みの数値に押し上げることを目標とする。

神戸	中播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	西播磨	計
77.25%	73.62%	72.07%	75.88%	72.52%	68.86%	73.64%	73.31%

8 数値目標

(単位:%)

区分	現状(R6)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	73.3							
目標値		73.7	74.1	74.4	74.8	75.2	75.5	77.0



推進項目名:

担当課名: 総合農政課

指標名	農漁業生産関連事業年間販売金額
-----	-----------------

1 指標の定義

農業生産関連事業(農産加工・農産物直売所・観光農園・農家民宿・農家レストラン)、漁業生産関連事業(水産物の加工・水産物直売所・漁家民宿・漁家レストラン)における販売金額の合計額。

2 指標の算定式

農業生産関連事業と漁業生産関連事業に係る年間販売(売上)金額

3 指標の選定理由

県民が農漁業生産関連事業に接することで生まれる直接的な指標であるため。

4 データの出典・収集方法

6次産業化総合調査により収集

5 データの収集時期

確報は例年7月下旬

6 指標の動向

過去10年においては、減少傾向にある。特にコロナ禍以降の減少が大きい。

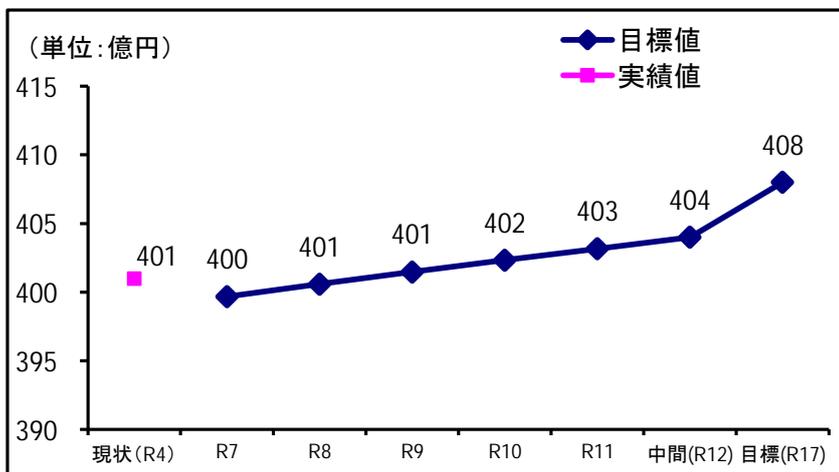
7 数値目標の説明

近似曲線によりすう勢を算出した場合、R17年度は388億円まで減少すると予測される。県民が農漁業生産関連事業に接する機会を増やすことをめざし、コロナ禍前の水準に近い金額を目標値とした。

8 数値目標

(単位: 億円)

区分	現状(R4)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	401							
目標値		400	401	401	402	403	404	408



推進項目名:

担当課名: 総合農政課

指標名	県産農林水産物を選んで購入している人の割合
-----	-----------------------

1 指標の定義

「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査において、「地元や県内でとれた野菜、果物、魚介類、肉などの食材を買っている」とした回答を収集。

2 指標の算定式

調査結果に基づく

3 指標の選定理由

県民が県産農林水産物に触れ、地産地消につながった結果が表れた指標であり、基本方向3「県民とともに育む豊かな食と「農」の充実」のめざす姿の達成度を図る指標として、県民から見て分かりやすいことから選定。

4 データの出典・収集方法

兵庫県豊かさ指標調査(計画課調査実施)により収集

5 データの収集時期

確報は例年9月下旬頃

6 指標の動向

過去10年間では、H26年度の72.6%をピークとして減少続けており、直近3か年では61.8~62.9%と横ばいで推移。総じて、阪神南・北県民局の数値が50~60%前後で低い傾向にある。

7 数値目標の説明

直近3か年では61.8~62.9%と横ばいで推移で推移しているため、神戸・阪神地域を中心に数値を底上げすることをめざし、過去5か年の平均値である64%まで高めることを目標とした。

R6年度の結果

全区	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路
62.9%	60.1%	55.5%	59.0%	65.6%	68.9%	66.5%	75.6%	77.1%	74.5%	85.1%

8 数値目標

(単位:%)

区分	現状(R6)	R7	R8	R9	R10	R11	中間(R12)	目標(R17)
実績値	62.9							
目標値		63.0	63.1	63.2	63.3	63.5	63.6	64.0

